



令和5年度 校長だより

令和5年10月11日(水)

春日の風Ⅱ

No.7

文責 松下 義彦

後期始業式にあたり

みなさん「おはようございます。」

4日間の秋休みが終わり、今日から2学期制の後期がスタートします。

今年の夏は猛暑が続きましたが、気候の方も秋らしくなり、涼しさを感じるようになりました。運動や学習もしやすい季節になりました。文化発表会も間近にひかえています。3年生は進路に向けて、1・2年生はそれぞれの目標に向けて後期も頑張ってください。

さて、校長先生はこの春日中学校を生徒のみなさんにとっても、先生方にとっても安全で安心な魅力ある学校にしたいと思ひ学校経営を行っています。

しかし、前期のアンケート調査から見ても、まだまだ力不足だなと感じています。そこで、後期を迎えるにあたり、次の作文をみなさんに聴いてもらって、今後の生活について考えてもらいたいと思います。少し、長くなるかもしれませんが、最後まで聴いてください。

この作文は、昨年度の全国中学生人権作文コンテスト福岡県大会作文集に掲載されている大宰府市の中学生が書いた「夜道や海中で泣いている子」というタイトルの人権作文です。

夜道や海中で泣いている子

「人権が守られていない場面って？」

小学生の頃の私だったら、このように聞かれた時、多分、「いじめ」か「戦争」。このどちらかを、また、この二つ以外答える事はできなかつたでしょう。なぜなら、小学生の頃の私の日常では、あまり人権について感じられる場面は少なく、人権について「もっと知りたい」とはあまり思えなかつたからです。また、道徳の授業などで「戦争」について学ぶ機会はありませんでしたが、その頃の私は、「戦争」は自分とは程遠く感じられ、「知ろう」とはしませんでした。

そのような自分のまま小学校を卒業していきました。そして、私は中学生になり、今までとは違う日常を過ごしていく事になりました。まず大きく違った点として、人権について考える事が増えたという事です。中学生になって「いじり」が増えたなとよく感じるようになりました。私は初め、「やりすぎじゃないか」と思う事がありましたが、いじられている本人は、ニコニコと楽しそうな笑顔を浮かべていたので、私はいじられている人達に対し、何とも思わなくなりました。また、私もいじられる事がありましたが普通に楽しかったというのもあり、より何も思わなくなりました。

そんなある日の夜、私はSNSを見ていました。すると、「考えさせられる写真集」という動画が流れてきました。私はその写真集を見て、笑った仮面を被った少女の写真と、海の中で泣いている少女の写真、この二つに目が留まりました。私はこの二つの写真を見た時ふいに思った事があります。あのいじられていた子達のあの笑顔は本当の笑顔だったのかなという事です。これが私が人権について考えるようになった大きなきっかけです。

【裏面に続く】

今までの私は、いじられている人の本当の笑顔かも分からない顔で大丈夫だろうと勝手に思っていました。しかし、その子がもし無理して笑っていたのならどうしようと、とても不安になりました。だから、私は思いきってその次の日の帰りにその子に聞いてみる事にしました。すると、その子は数十分もの間、辛かった事などを話してくれました。今となるとその女の子の話が聞いて本当に良かったと思います。このように、知らず知らずのうちに周りの人の人権を壊してしまっているかもしれないと身にしみて感じました。

その数日後、また人権について考えることのできる機会が訪れました。それは、五つの絵画を見て自分の考えや疑問を書き、友達と共有するという内容の美術の授業です。私のきっかけとなった絵画は五つ目の絵画です。その絵画とは、『桃太郎』にでてくる鬼の子ども目線の言葉が書いてある絵画です。私は今まで『桃太郎』を読んで鬼が敵という一つの見方でしか読めていませんでした。しかし、『桃太郎』にはもう一つの見方がある事に気付く事ができました。それは鬼の子どもからすると、桃太郎は親を殺した憎いやつという見方です。

私はこの時思いました。今おこってしまっている、ウクライナとロシアの戦争は今まで、正直ウクライナの人だけにかわいそうや、大丈夫かななどの気持ちを持っていました。しかし、ロシアの人でも戦争によりたくさんの命を奪われています。このように見方を変えるだけで、色々な事に気付く事ができます。

そして、この『桃太郎』と「戦争」のように、戦って命を人権を奪うことから何も生まれてきません。だから、色々な見方で物事を考え、相手の本当の気持ちに気付き行動する事で相手の人権を守り、幸せにする事ができるのではないかと考えました。私は正直人権が守れないのは「戦争」、「いじめ」だけだと思い込み、ずっと自分から知ろうとしていなかったのかもしれない。しかし、中学生になり色々な事を学び、人権や相手の気持ちや違うもう一方の見方を考えたり、調べたりする事の大切さを知る事ができました。

夜道や海中で泣いている子の涙は、暗闇や海水に紛れ、なかなか見つける事はできません。その上、海で遊んでいる時や、夜道を友達と楽しく通っている時、まさかそこに泣いている子がいるとは考えられないかもしれません。それくらい本当に自分の嫌だという気持ちを隠し笑ってごまかし、他の楽しそうな友達に紛れているその子を見つけるのは簡単な事ではないのです。

しかし、私はだからといって諦めるような人にはなりたくありません。私は気軽に相談できるような雰囲気をつくり、そんな子の逃げ場となれるような人になりたいです。また、そのように辛い思いをしまっている子に気付き、声をかけ、一人でも無理して笑う子を減らしていけたらいいなと思っています。

さて、いかがだったでしょうか。

一人一人、感想を聞いてみたいところですが、時間もありませんので、この辺で終わりますが、もし、機会があれば、感想を聞かせてください。

それでは、今日から始まる後期がみなさんにとって、安全で安心な魅了ある学校になることを期待して、校長先生の始業式のあいさつとします。

